



紫尾 清尾 きの水麓 が潤す

稜線の美しい大きな山がひととき存在感を放つ紫尾山。かつては山岳信仰の修行の場でもあった霊峰です。北薩の最高峰であり、標高は 1,067m。山頂からは東シナ海や天草諸島、霧島連山や桜島などを一望できます。この山を頂点に緑豊かな風景が広がっています。紫尾山をはじめとする山々は雨水をたっぷりと蓄え、麓にきれいな水をもたらします。また、町内には川内川も貫流しています。町内あちこちで、せせらぎの音を耳にすることができます。こういった豊富な水が田園地帯を潤し、ダイナミックな景観を作り上げています。

● Mt. Shibi



紫尾山頂から日の出を望む



樹氷



登山道



千尋の滝

自動車道が整備され、頂上まで車で登れます。登山も楽しみ、道中にある落差72mの千尋の滝も名所です。冬には山頂付近で美しい樹氷も見られます。



ホタル、乱舞する

5月頃になると、澄んだ水の流れるせせらぎにホタルが乱舞。その幻想的な光景は見る人を圧倒します。自然が作り出す光のイルミネーションは、さつま町の初夏の風物詩です。シーズン中はホタル舟も運航。神子地区のホタル大橋近く（奥薩摩のホタル舟）、二渡水辺公園（二渡ホタル舟）の2か所の発着場があります。



奥薩摩のホタル舟



二渡ホタル舟

観音滝

3段の美しい滝で、観音様が現れたという伝説もあります。新緑や紅葉も美しく、季節によって表情が移ろう。周辺は「観音滝公園」として整備され、キャンプや川遊びも楽しめます。



轟の瀬

川内川と支流の穴川の少し上流にあり、岩場に激流がぶつかる光景は迫力満点です。江戸時代の初め頃、舟の通行を可能にするため左岸側を開削した歴史があります。



神子滝

轟の瀬よりも上流にあり、落差は7mほど。轟の瀬、曾木の滝（伊佐市）とともに「川内川三轟」のひとつに数えられています。天保13年（1842年）には轟の瀬と同様、開削されました。



北薩広域公園

川内川沿いにある広大な県立公園で、地域の自然・文化・歴史をテーマに整備されています。タケノコ掘りや炭焼きといった里山の暮らしを体験できるイベントも随時開催されています。また、天然温泉を備えるオートキャンプ場の利用も人気です。



鶴田ダム

昭和41年に完成した九州で1番高い重力式ダムで、コンクリート壁は高さ117.5m・長さ450mもの規模があります。近くには鶴田ダム公園もあり、ダムと大鶴湖（ダム湖）を一望できます。

川内川大鶴うゆう館



鶴田ダムに隣接しており、発電の仕組みを学べる「発電展示室」、ダムの機能や川内川流域での河川激甚災害対策特別緊急事業を紹介する「川内川流域展示室」のほか、レストランや観光案内所機能も備えた複合施設となっています。

Say!!

素敵♥さつま町

奥薩摩のホタルを守る会 会長 齊藤 ミチ子 さん

神

子地区のホタル舟は、有志の呼びかけで平成14年に始まりました。町内から募ったボランティアを主体にホタル舟を運航し、さつま町を代表する手づくりの地域おこしイベントとして定着しています。最近では、時期が近づくと地域全体が盛り上がり、ホタル舟は私たちの誇りです。また、運航期間中には川沿いの家が消灯したり、子どもたちが合唱で観光客を迎えたりと、みなさん協力してくれます。この活動を通して、住民同士が仲良くなり、地域の絆や人の温かさを感じます。このホタル舟の活動だけでなく、さつま町は地域活動が盛んだと思います。そして、人情に厚くて人が輝いているところだと感じています。





神の湯で温もりに紅く

町内のあちこちに温泉が湧く、県内でも有数の温泉地です。さつま町の温泉の特徴は温泉通をうならせる泉質の良さで、町外の方にも人気です。特に宮之城温泉と紫尾温泉は古くから湯治場として知られ、それぞれに落ち着いた雰囲気の宿が並ぶ温泉街が形成されています。いずれも柔らかい肌触りの泉質で、肌がスベスベになることから「美肌の湯」とも呼ばれています。低料金で利用できる区営温泉もあり、地域住民にも日常的に利用されています。温泉旅館に宿泊して贅沢に楽しむもよし、立ち寄り湯で気軽に楽しむもよし。さつま町の温泉は町民も観光客も魅了しています。

● Hot spring



紫尾温泉まつり



紫尾温泉の無料足湯



川内川に沿って旅館・温泉施設が10軒ほど並ぶ静かな温泉街です。開湯は文政年間（1818年～1829年）とされ、湯治場として栄えてきました。昭和7年までは「湯田温泉」と呼ばれていました。また、この地の湯之神社（湯権現）は、江戸時代末期に上流で流出した菱刈湯之尾の御神体が流れ着いたことが創建の由来とされています。

宮之城温泉



宮之城温泉の内湯



湯之神社



みやんじょ温泉竹ホタル

毎年12月に開催される川内川流域のホタルの再生を願って始まったイベントです。温泉街の1kmほどの道沿いに7,000本もの竹灯籠の明かりが灯り、辺りは幻想的な雰囲気に包まれます。

紫尾温泉



温泉の存在はかなり昔から知られていましたが、浴用に利用されるようになったのは貞享年間（1684年～1687年）とされています。源泉が紫尾神社の拝殿の下より湧き出すことから「神の湯」とも呼ばれています。湯治場の雰囲気を今も残し、神社周辺に温泉施設や温泉宿が数軒あります。



紫尾温泉の露天風呂



あおし柿

温泉の湯にひと晩漬けることで渋抜きする「あおし柿」も名物です。その光景は10月～11月に見られます。湯の力で甘くなった柿は、町内の物産館でも販売しています。



紫尾神社

他にも色々 さつま町の温泉施設



健康ふれあいセンター あび〜る館



観音滝温泉 滝の宿



きらら温泉 白男川紫陽館



町内には他にも多くの温泉施設があります。詳しくはp21～22の「さつま町MAP」をご覧ください。

Say!!

素敵♥さつま町

やまのくちなりあき
紫尾温泉組合 代表 山之口 愛章 さん

温泉はさつま町が自慢できるもののひとつです。私たちの紫尾温泉は、美しい自然の中であって、神秘的な湯が湧き、昔ながらの雰囲気が残る静かな温泉郷です。温泉めぐりをされている方からも「泉質が素晴らしい」、「本当に来てよかった」と褒めていただけます。改めて、大切に守っていかなければならない財産だと思います。来ていただける人々への感謝の気持ちを忘れずに、紫尾温泉一体となって盛り上げていきたい。各温泉宿および温泉組合ではイベントやPR活動に努めています。また、周辺の整備も検討中です。「心も体も最高に癒される温泉地」となれるように努力し、後継者へと引き継いでいきたいです。





いまも息づく 黄金伝承

江戸時代初め、砂金が出ることに目をつけた宮之城島津家4代・久通は金山の探索を命じます。寛永17年（1640年）、永野地区と霧島市山々野地区にまたがる金山を発見。これが永野金山（長野金山、山々野金山とも言われる）です。産金量は佐渡金山をもしのぎ、日本一だった時期もあります。人も集まり、金山町も形成されました。幕末には島津家28代当主・島津斉彬による集成館事業の中で金山採掘の近代化が図られます。斉彬の死で事業は一時頓挫しましたが、五代友厚らの上申書を藩が採用して事業を再興。フランスから鉱山技師を招聘して鉱山の近代化を推進しました。明治時代以降は島津家の個人資産として運営され、採掘は昭和28年まで続けられました。

● Ruins of Nagano Kinzan



永野金山跡（胡麻目坑口跡）

永野金山と 西郷菊次郎

西郷菊次郎は、西郷隆盛と愛加那の子です。奄美大島から西郷本家に引き取られ、西南戦争にも従軍。負傷により投降したあとは政府に出仕し、台湾総督府勤務、宜蘭県知事や京都市長などを歴任。その後、明治45年から大正8年まで金山鉱業館長を務め、鉱山設備の近代化などに尽力しました。そして、自費を投じて夜学校や武道場を開設し、青少年教育にも力を注ぎました。



鉄橋跡



宮之城島津家とさつま町

宗功寺墓地 [県指定文化財]

17世紀の初め頃に領主の島津忠良が菩提寺として宗功寺を建立。明治時代初めの廃仏毀釈により廃寺となりましたが、ここには宮之城島津家2代忠良をはじめ、33基の墓石が立ち並んでいます。幕府の儒官であった林春斎の銘文が刻まれた祖先世功碑もあります。



宮之城島津家は島津忠良（日新斎）三男の島津尚久を祖とし、尚久の子の島津忠良が慶長5年（1600年）に宮之城の地を与えられて統治するようになりました。宮之城島津家は分家の中でも家格が高く、藩の家老を数多く輩出しています。領地をよく治め、金山の発見、新田開発などにおいて藩の財政にも大きく貢献しました。



山崎郷御仮屋跡

町南部の山崎地区は江戸時代の外城制度における「郷」の雰囲気を感じられます。山崎郷は藩の直轄地で、その御仮屋（役所のようなもの）の門が復元されています。

貴重な歴史資料もたっぷり



宮之城歴史資料センター

旧石器時代から近現代に至るまで町の歴史を網羅。時代を順に追ってわかりやすく紹介されています。『宮之城記』をはじめとする文書資料、宮之城島津家ゆかりの品といった貴重な資料を多数展示。



ふるさと薩摩の館

民具や農具など昔の暮らしのわかる資料を多数展示。また、永野金山の特設コーナーもあり、金山でかつて使用されていた道具類、明治時代の金山の様子が見られる写真なども見ることができます。

梅君ヶ城跡

島津歳久の側室、梅の居城。豊臣秀吉が九州攻めの際に立ち寄ったともされています。



太閤陣跡

豊臣秀吉が陣を張ったとされる場所が鶴田にあります。島津義弘が降伏のために訪れた場所として伝わっています。

大石神社

中津川にあり、祁答院良重と島津歳久を祭神としています。秋の祭りは「金吾様踊り」として親しまれています。



島津歳久とさつま町



大石神社大祭時の奉納踊り

島津歳久は島津貴久の三男で、兄の義久・義弘、弟の家久とともに戦国島津家の勢力拡大の中で活躍しました。天正8年（1580年）に祁答院（現在のさつま町全域を含む）領主となり、12年間にわたって治めました。豊臣秀吉との戦いでは最後まで抗戦を主張し、領内を通過する秀吉のかごに矢を射かけさせたりもしています。通称は「金吾左衛門督」。現在でも地域住民からは「金吾様（きんごさま）」と親しまれています。

渋谷一族とさつま町

さつま町一帯はかつて「祁答院」と呼ばれ、古くは大前氏がこの地を治めていました。鎌倉時代には千葉氏が川薩地域一帯の郡司に任命されますが失脚し、その後は渋谷光重が領地を拝領します。光重は5人の息子に領地を分け与え、これが渋谷五族と呼ばれるようになりました。やがて祁答院を支配した一族は祁答院氏を名乗り、鶴田を支配した一族は鶴田氏を名乗ります。のちに鶴田氏は、他の渋谷一族と対立し、応永8年（1401年）の鶴田合戦に敗れて没落。鶴田も祁答院氏が支配します。その祁答院氏も、戦国時代に島津家に敗れて領地を奪われました。



虎居城跡

平安時代末頃に大前氏が築城。その後は、祁答院氏のほか、島津歳久や北郷時久も本拠地としました。「下之城」という別名もあり、これはのちに「宮之城」に改められました。



首塚

鶴田合戦の戦没者のために建立されたもの。県内最大規模の供養塔で、高さは3m以上。

Say!!

素敵♥さつま町

さつま町文化財保護審議会 会長 原田紀史さん

宗功寺跡や虎居城跡、紫尾温泉周辺の遺跡群、永野金山関連遺構など歴史的遺産が多数あります。地域の文化財が残されているのは、長い時間をかけて先祖たちが守り続けてきた証です。これらを保存継承しながら次世代へと引き継いでいくことが私たちの責務なのです。しかし、町民の歴史・文化財に対する関心は決して高いとはいえません。小中学校と協力しながら郷土教育を行い、あわせて高齢者学級の場を活用した取り組みを推進。自分たちの住む地域の歴史をより深く知ってほしいと思っています。また、文化財は重要な観光資源でもあります。有効活用して、観光振興の充実にもつなげていきたいところです。





青き若天を竹を突く

鹿児島県は竹林面積日本一。その中であって、さつま町は特に竹林が多く、1,308ha（平成27年現在）もの竹林が広がります。竹にも様々な品種が見られますが、最も多いのが孟宗竹。これは「町の竹」にも指定されています。このような環境もあって、さつま町はタケノコの産地であるほか、竹資源を素材とした工芸品や商品も多数あります。長年にわたって「竹の町」をテーマにした町おこしが続けられているのも大きな特色。竹を活かした景観作りが随所になされ、タケノコを使ったご当地グルメもあり、竹にちなんだイベントも開催されています。

◎ Bamboo



孟宗竹



竹を素材にした工芸品



町の雰囲気づくりにも竹が一役買う（湯田八幡神社）



さつま町のタケノコ

竹林の多いさつま町は、早掘りタケノコの産地です。香り豊かで歯応えがよく、全国的にも高い人気を誇ります。春はもちろんのこと、それよりも前に10月末から超早掘りタケノコが出荷されます。



タケノコ加工工場

町内の工場では採れたてのタケノコだけを加工します。水煮にしたものを缶詰にして保存し、出荷の直前に開缶して袋詰め。年間通して、いつでも新鮮な状態でタケノコを味わえます。



タケノコ掘り体験

毎年春に開催される「泊野観光たけのこ園」やグリーン・ツーリズムの一環としてタケノコ掘りも体験できます。

竹細工

良質な素材がたっぷりあることから、竹細工も名物となっています。伝統的な技法で丁寧に作られていて、花入れ・かご・ざる・小物類など、どれも人気です。



職人の技が光る



宮之城伝統工芸センター

館内には竹製品などを展示し、「竹の博物館」的施設です。特産品販売所「フレッシュ宮之城」もあり、竹製品などを求めて多くの人が訪れます。竹細工の体験もできます。



ちくりん公園

世界中の竹が集められた公園。北薩広域公園の一角にあり、竹をイメージしたモニュメントが目印です。園内には茶室もあり、ゆったりとくつろぎながら竹林を眺めることもできます。

Say!!

素敵♥さつま町

タケノコ園オーナー **三腰 初二** さん

観 光たけのこ園のイベントは平成5年より始まり、本当に多くの方が訪れてくれるようになりました。近年では、「泊野といえばタケノコ」というイメージも定着してきたように思います。春のイベントに参加された方が、別の時期にふらっと見にくることもあったりします。このイベントによって町外から人が訪れるようになり、地域が活性化し、いろいろな出会いもあります。環境保全に対する意識も高まりました。一方で、ほったらかしの竹林もまだまだあります。もっと声掛けして、きれいな竹林を増やしていきたいですね。泊野の竹林は大事な宝物です。しっかりと守って、未来へと受け継いでいかなければなりません。

